

平成28年4月27日  
九州地方整備局河川部

## 鶴田ダムを増設放流設備から初のゲート放流を開始

鶴田ダムでは、再開発事業により増設した放流設備が平成28年3月に完成したことから、4月1日より新たなダムの運用を開始してまいりました。このたび、本日17時30分より運用後初めて増設放流設備からの放流を開始しました。

鶴田ダムの再開発事業は、平成18年7月、川内川流域において記録的な豪雨によりこれまでにない大きな洪水被害を受けたことから、洪水被害を軽減するため、鶴田ダムの洪水調節容量を増やすとともに放流設備を増設するものです。（別紙参照）

なお今回の放流は現在の降雨状況による貯水池の水位維持を目的としており、下流への放流量は発電放流と合わせて100m<sup>3</sup>/秒程度を予定しています。（増設放流設備の放流予定量：約30m<sup>3</sup>/秒）

鶴田ダム再開発事業について

<http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/tsuruta-damu/index.html>

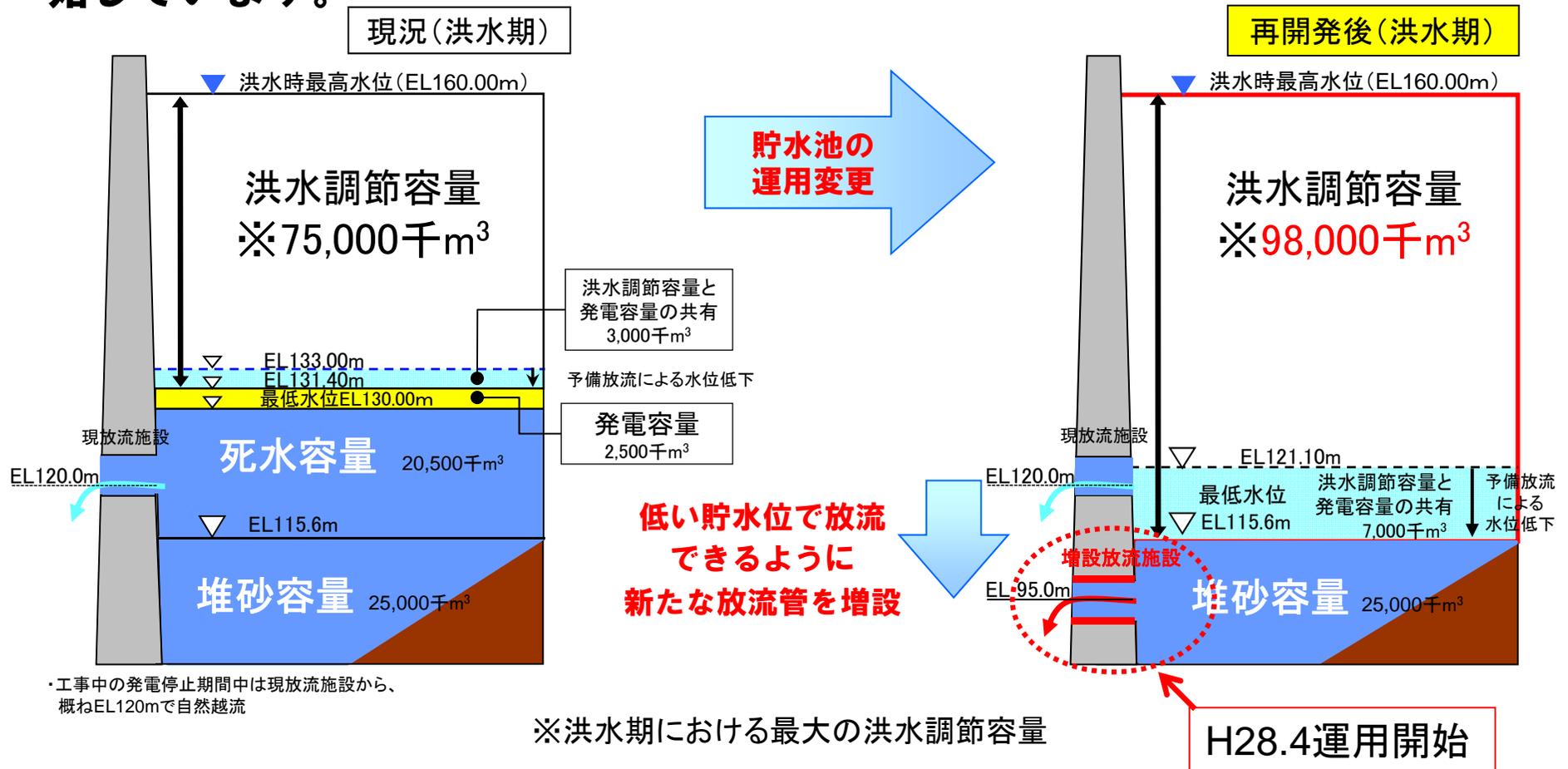
### 記者発表に関する問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 河川部河川管理課  
課長補佐 坂本 信也  
TEL 092-471-6331（内線 3753） FAX 092-476-3473

# 鶴田ダム再開発事業の目的

別紙

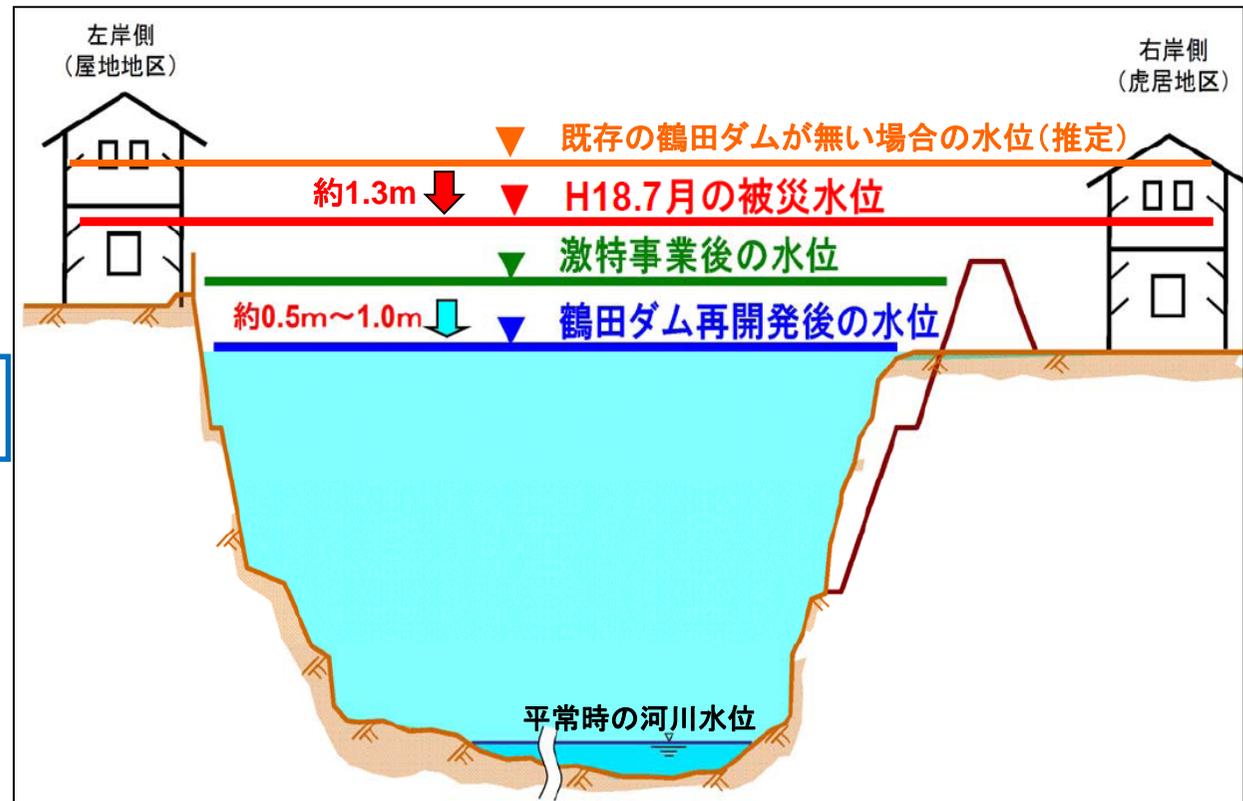
平成18年7月、川内川流域は記録的な豪雨によりこれまでにない大きな洪水被害を受けました。鶴田ダム再開発事業は、洪水による被害を軽減するため、鶴田ダムの洪水調節容量を最大75,000千 $m^3$ から最大98,000千 $m^3$ (約1.3倍)に増やす事業で、平成19年度より事業に着手し平成28年4月から運用開始しています。



# 鶴田ダム再開発事業の効果

別紙

現在の川内川に平成18年7月と同規模の洪水が発生した場合、甚大な被害を被った宮之城地区において鶴田ダム再開発事業により、激特事業（平成18～23年度）後の水位から、さらに約0.5～1.0m水位を低下させます。



鶴田ダム再開発事業による宮之城地区（川内川35k200～39k000付近）での水位低下効果

# 鶴田ダム 増設放流設備からの初の放流状況

平成28年4月27日17時40分頃



全 景



近 景